

 環境方針

ミツバ環境宣言

ミツバグループは、サステナビリティのひとつである環境領域の方針として、1993年5月に「ミツバ環境宣言」を制定、公表しました。この宣言の実現に向けてグローバルで環境活動に取り組んでいます。

私たちは、社会と環境に調和した技術開発を通して、自然環境との継続的な共生を図り、豊かで安心できる環境の実現をめざします。

- 一. 私たちは、開発、生産、販売すべての企業活動において、資源・エネルギーの節約に努めます。
- 一. 私たちは、廃棄物、汚染物質の削減と適正な処理に努めます。
- 一. 私たちは、地域環境との調和を図り、安心できる生活環境の保全に努めます。

ミツバ環境行動指針

1. 限りある資源の節約と有効利用を図ります。
2. 全ての企業活動を通してエネルギーの節約を進め、地球温暖化防止への責任を果たします。
3. オゾン層を守るため、オゾン破壊物質の代替を図ります。
4. 製品への使用を含め、化学物質の適正管理と有害化学物質の使用廃止を図ります。
5. 環境マネジメントシステムを整備し、法規制より厳しい社内基準の遵守に努めます。
6. 環境に関わる社会活動に積極的に参加します。

 環境方針**ミツバ環境ビジョン2046**

ミツバグループは、グループ統一の長期目標として「ミツバ環境ビジョン2046」を2017年5月に制定しました。このビジョンは「環境宣言」にある「豊かで安心できる環境の実現」を達成するための長期目標であり、CO₂排出量の削減および資源使用量の30%削減を通じた「企業価値の向上」と、環境汚染リスクのゼロを目指す「自然環境の保全」との両立の実現に向けて、ミツバの創立100周年にあたる2046年を目標年度に定めています。

ミツバグループカーボンニュートラル方針

ミツバグループは、「ミツバ環境ビジョン2046」におけるCO₂排出量の削減をさらに発展させ、「ミツバカーボンニュートラル方針」を2022年6月に制定しました。

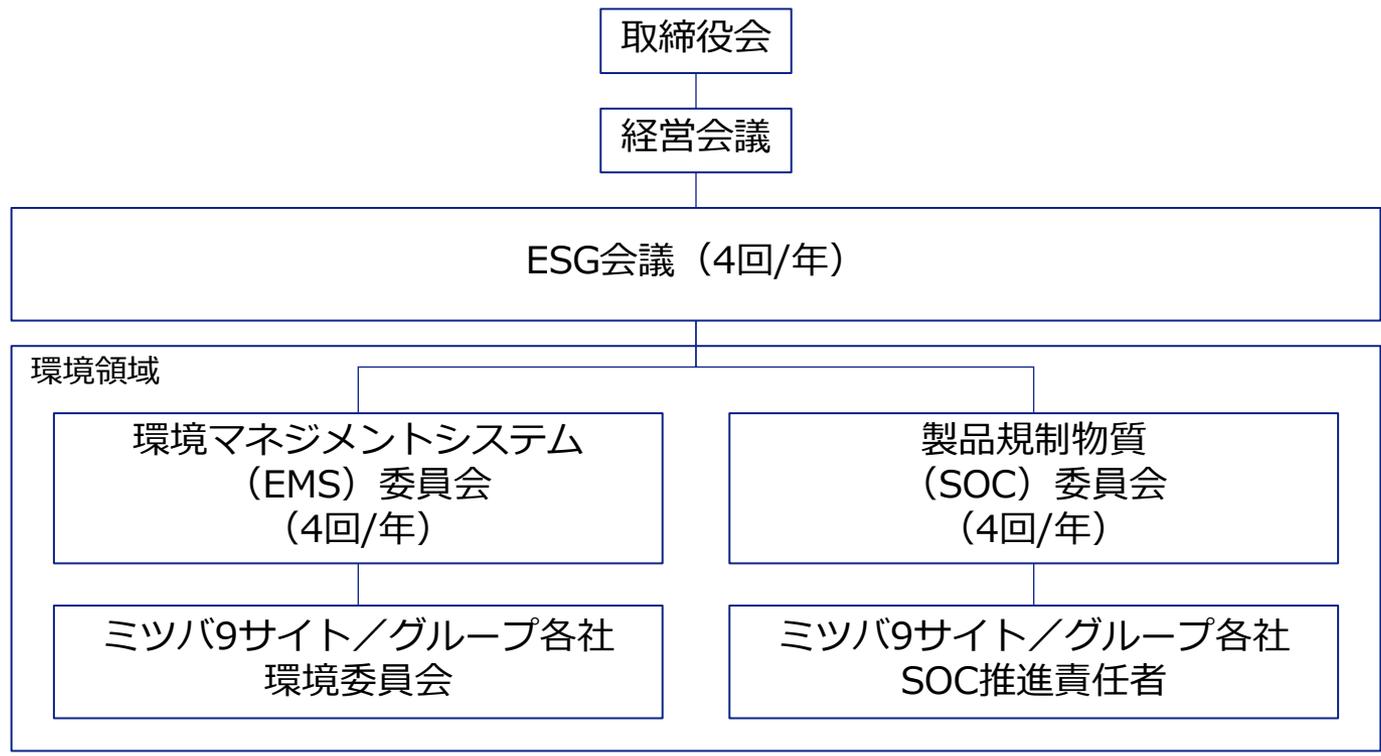
ミツバグループは、脱炭素社会の実現に貢献するために、ライフサイクル視点でカーボンニュートラル達成を目指す。

2050**長期目標：2050年にライフサイクル全体のカーボンニュートラル達成を目指す****2030****中期目標：2030年にScope1,2を50%削減する****2024****2024年度目標：2024年にScope1,2を自助努力で9%削減する**

環境マネジメント

推進体制

ミツバでは、「EMS委員会」を中心に環境マネジメントシステムを運用し、環境保全活動に取り組んでいます。年に1度、全社環境統括管理者である副社長執行役員によるレビューを行い、取り組みの有効性および適切性を確認しています。経営への影響度が大きい案件については「ESG会議」にて決議しています。



環境マネジメント

ISO14001認証取得

ミツバグループは、「ミツバグループ環境マニュアル」を定めてグループ全体の環境マネジメントシステムを構築し、2023年3月末時点では、生産拠点を主体にミツバを含むグループ国内7社、海外17社の計24社（売上比率で98%）が環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。グループ各社は環境マネジメント活動実績を年2回報告し、ミツバは実績の有効性を評価するため、現場現物でのグループ環境監査を実施しています。

また、「ミツバグループグリーン購買ガイドライン」を発行し、お取引先さまに対しても、ISO14001等の認証取得を推奨しており、サプライチェーン全体で環境保全に取り組んでいきます。

ISO14001認証取得数および取得率



ISO14001外部審査

環境マネジメント

環境教育

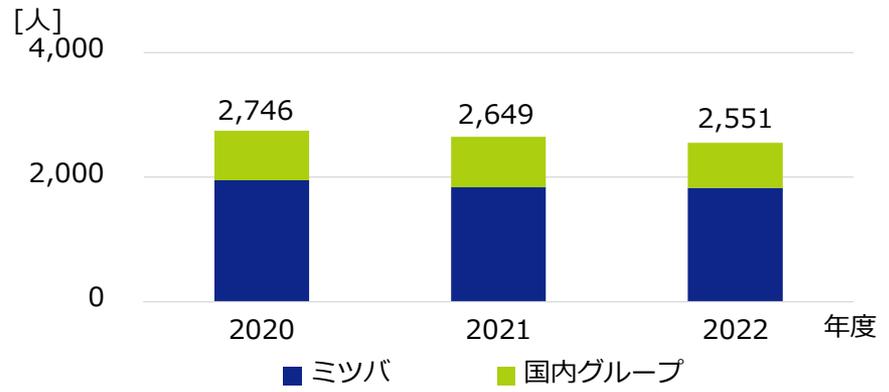
汚染された自然環境を健全な状態に修復するには、多大な時間と費用がかかります。そのため、環境保全に対する当事者意識を育てるよう、国内のミツバグループ社員へe-ラーニングによる基礎教育を実施しています。加えて、階層別教育やサイト・職場固有の環境教育により、法令遵守やリスク防止に取り組んでいます。

環境監査

ミツバでは、環境マネジメントシステムのPDCAサイクルが適切かつ有効に機能していることを確認するために、内部環境監査を毎年実施しています。監査においては、過去の監査結果や環境上のニーズ、課題の変化を考慮した重点監査項目を設定しています。

また、グループ各社に対しても「環境ビジット監査」を行い、環境マネジメントシステムの有効性および適切性を確認しています。

環境e-ラーニング受講者



環境ビジット監査

環境マネジメント

環境目標・実績

ミツバグループは、特定したマテリアリティを「中期環境管理方針」に落とし込み、CO₂排出量の削減や環境管理体制の強化に取り組んでいます。グループCO₂排出量は、カーボンニュートラル委員会活動を意欲的に推進することにより、2018年度比12%と大幅に削減できました。

第12次中期環境管理方針：「ステークホルダーの期待に応えるESGの推進」

重点施策	2022年度			2023年度
	目標	実績	評価	目標
CO ₂ 排出量の削減	グループCO ₂ 排出絶対量：2018年度比			
	3.0%削減の施策立案・推進	5.3%削減の立案完了 (削減実績：12%達成)	○	6.0%の施策立案・推進
持続的な省資源	廃棄物リサイクル率：			
	90%以上	94.7%	○	90%以上
EMS運用による リスク低減	グループ全体水使用量：			
	維持	維持できている	○	維持
製品規制物質 管理体制の強化	重大違反ゼロ			
	重大な環境汚染、事故および法令違反はない		○	重大違反ゼロ
生物多様性への 貢献	業界標準による管理体制評価：			
	3.5点以上	3.2点	△	3.5点以上
環境ボランティア活動実施率：	環境ボランティア活動実施率：			
	100%	100%	○	100%

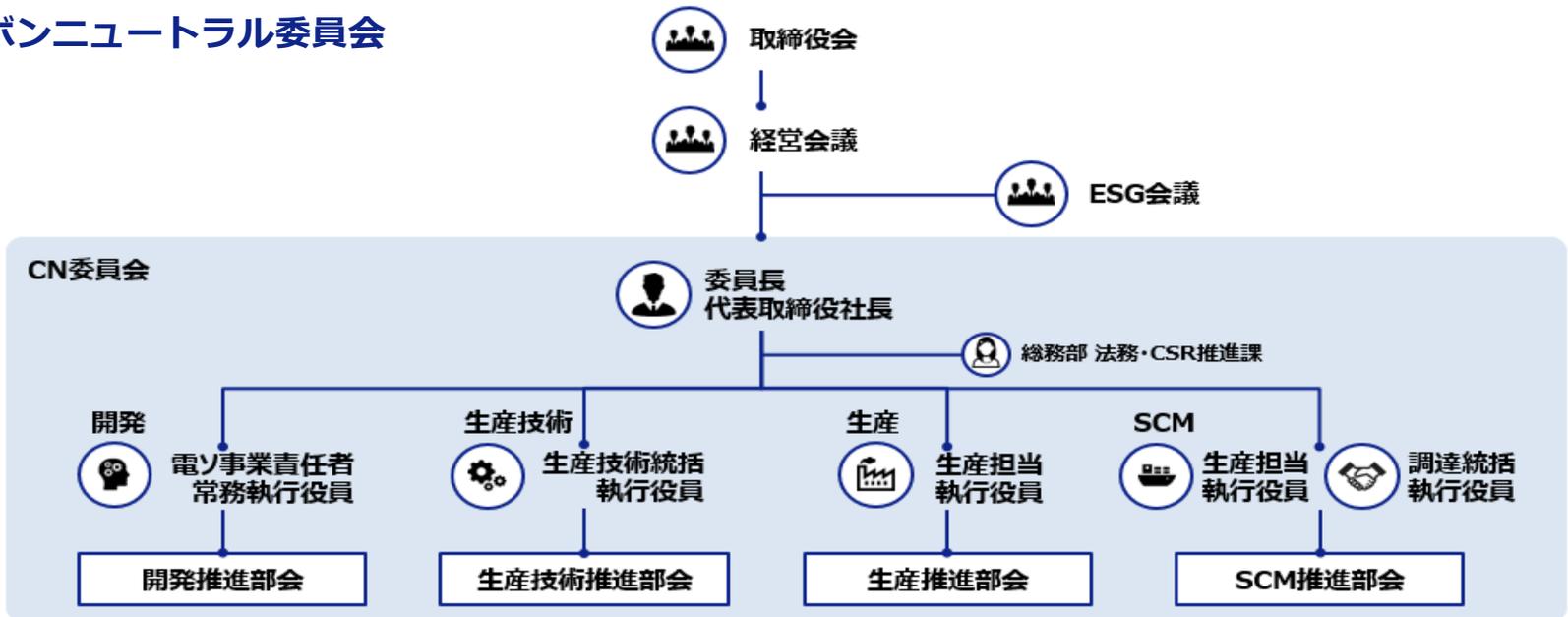
評価基準 (○：100%、△：80%以上、100%未満)

気候変動への対応

カーボンニュートラル実現への貢献

これまでミツバグループは、グループ内のCO₂排出量削減に取り組み、着実に成果を出してきました。しかし、カーボンニュートラルの実現に貢献するには、製品のライフサイクル視点で事業活動により直接的・間接的に排出するCO₂排出量の把握・削減にサプライチェーン全体で取り組む必要があります。2021年度より代表取締役社長を委員長とした「カーボンニュートラル委員会」を発足し、その直下に、開発、生産技術、生産、サプライチェーンマネジメントの領域を分けた推進部会を設置し、従来のグループCO₂排出量の削減から、材料調達から製品・部品の輸送、さらに製品の使用段階まで拡大し、サプライチェーン全体での削減に挑戦しています。

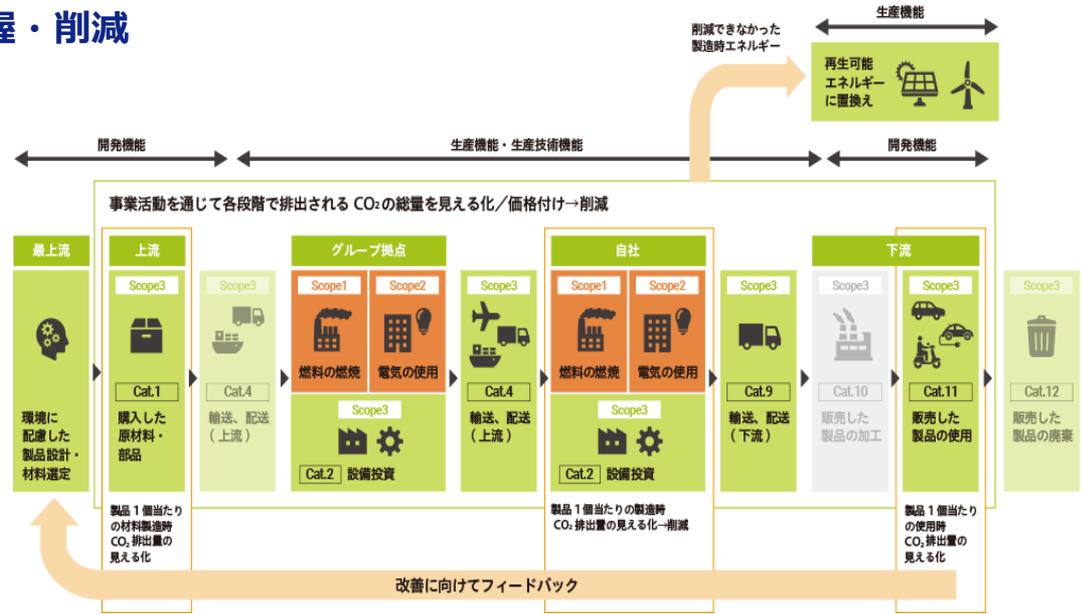
カーボンニュートラル委員会



気候変動への対応

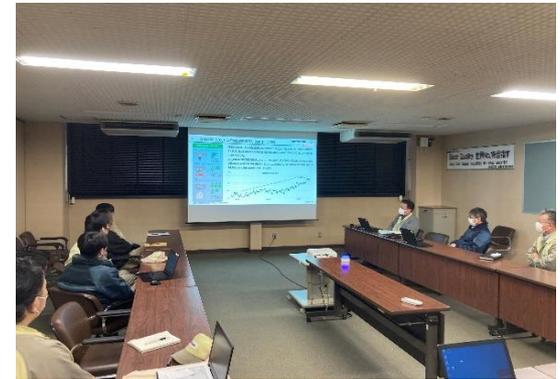
ライフサイクル視点でのCO₂排出量の把握・削減

カーボンニュートラル達成のためには、材料調達から製品・部品の輸送、さらには製品の使用や廃棄まで取り組み範囲を拡大し、サプライチェーン全体でCO₂排出量を削減していく必要があります。また、製品1個当たりのCO₂排出量を見える化し、最上流（開発機能）へ情報提供することにより、環境配慮設計や材料選定のさらなる改善につながることを期待できます。



カーボンニュートラル普及啓発

「ミツバグループカーボンニュートラル方針」の達成には、グループ内のすべての従業員の協力が必要です。社内向け専用ホームページの開設、教育動画の作成、また社内広報誌での特集など普及啓発にも努めています。



カーボンニュートラル教育（赤城工場）

気候変動への対応

温室効果ガス（CO₂）排出量削減の取り組み

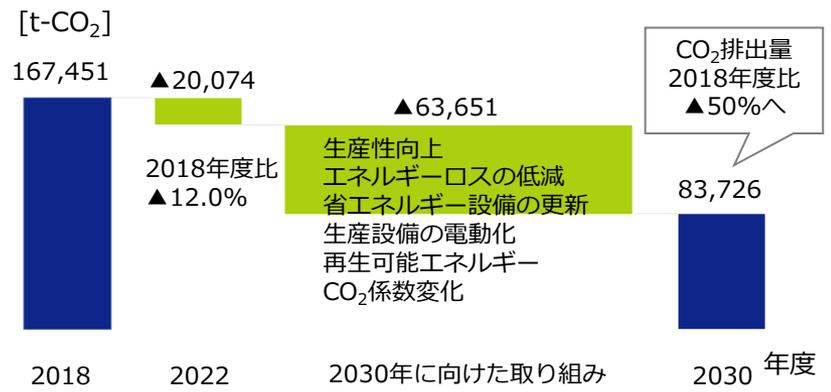
2030年にScope1,2(グループCO₂排出量)を2018年度に対して50%削減する目標に向けて、削減構想やロードマップを整備し、高効率生産の実現と生産技術力の進化に挑戦するとともに、再生可能エネルギー導入を進めています。

2022年度は、年3%の削減施策の立案目標に対して、5.3%相当の施策が着実に進められCO₂排出量削減と合わせて、高騰するエネルギーコストを抑制することができました。また再生可能エネルギーの活用も積極的に進めており、太陽光発電システムにより合計2,640MWhを発電しました。今後も、地域に適した再生可能エネルギーの利用を進めていきます。

ミツバグループCO₂排出量



ミツバグループCO₂排出削減構想

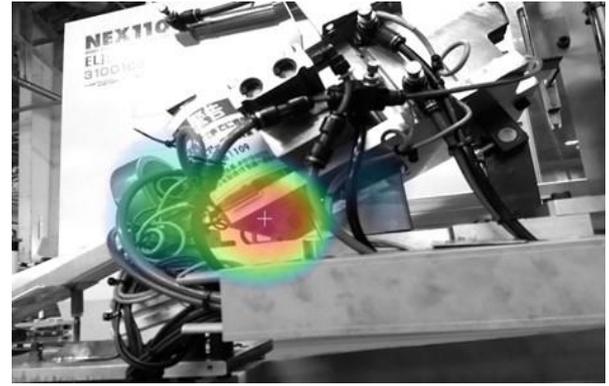


- ・原単位指数は売上高当たりのCO₂排出量を1とした場合の指数
- ・電力のCO₂排出量は電力会社ごとのCO₂排出係数またはIEA各国係数を用いて算出
- ・燃料油・ガスのCO₂排出量はGHGプロトコル係数を用いて算出

気候変動への対応

具体的な削減の取り組み

CO₂排出量の具体的事例としては、エア漏れ可視化装置を活用したエネルギーロスの確実な低減、ネック工程の見える化、空気調和設備やコンプレッサーなどのエネルギー設備の高効率機器への更新を計画的に進め、電力や灯油使用量の大幅な削減を実現しています。また、目標達成に向けた取り組みの進捗状況や有効施策の事例をカーボンニュートラルトピックスとしてまとめ、グループ内に定期配信しています。



エア漏れ可視化ツールによる対策箇所の特定

TOPICS

社外からの評価

「令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰(※)」において、当社社員が「創意工夫功労者賞」を受賞いたしました。「カラクリと電動機器を用いた省エネ自動設備の考案」の省エネルギーや生産性向上への貢献が認められ、この度の受賞となりました。

(※)文部科学省で、優れた創意工夫によって科学技術の進歩または各職域における改善向上に貢献した者について、その功績をたたえることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的として行っている表彰



受賞時の様子

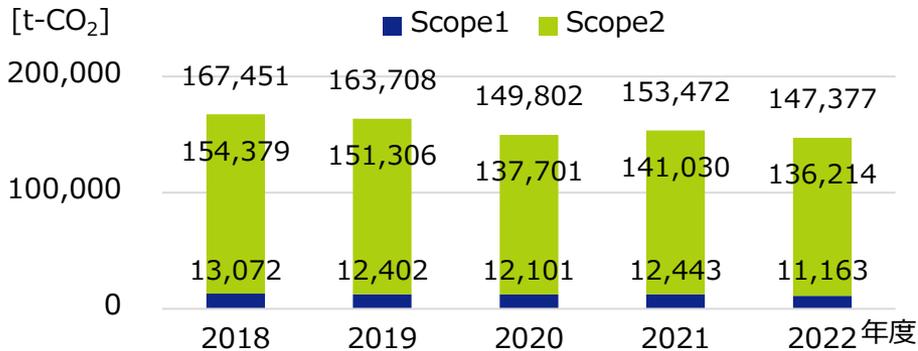
気候変動への対応

ミツバグループ直接・間接エネルギー使用量



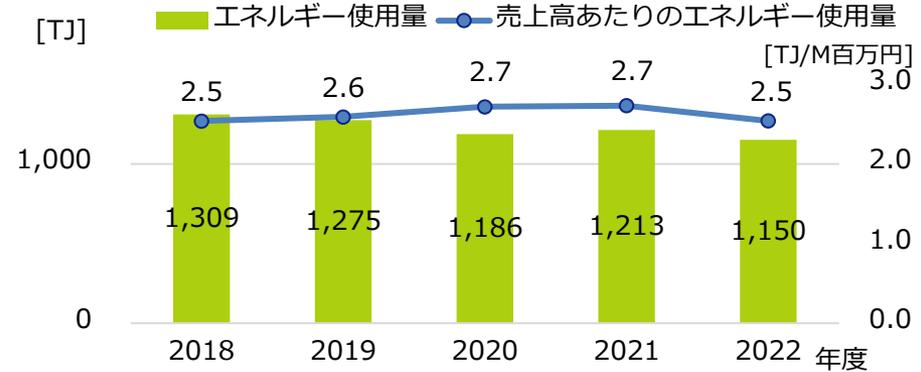
- ・直接：温室効果ガスの直接排出源（燃料・ガスの使用）
- ・間接：温室効果ガスの間接排出源（購入電力の使用）

ミツバグループ温室効果ガス排出量（Scope1,2）



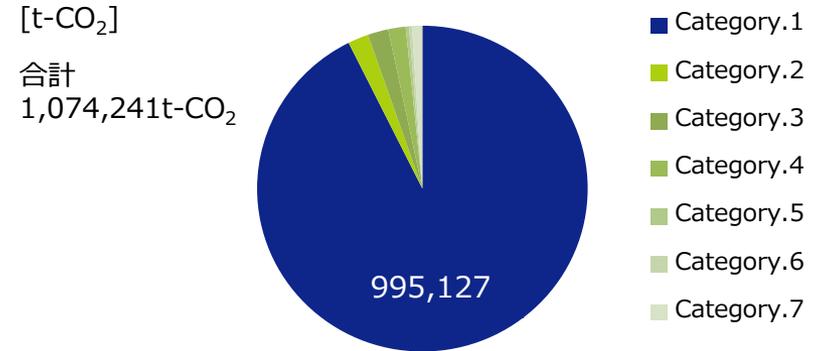
- ・Scope1：ミツバグループ自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼) GHGプロトコル排出係数を用いて算出
- ・Scope2：他社から供給された電気の使用に伴う間接排出 電力会社ごとのCO₂排出係数またはIEA各国係数を用いて算出

ミツバグループ売上高あたりのエネルギー使用量



- ・ミツバグループ売上高あたりの直接,間接エネルギー使用量

ミツバグループ温室効果ガス排出量（Scope3上流）



- ・環境省のサプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインを用いて算出

資源循環

省資源・廃棄物削減の取り組み

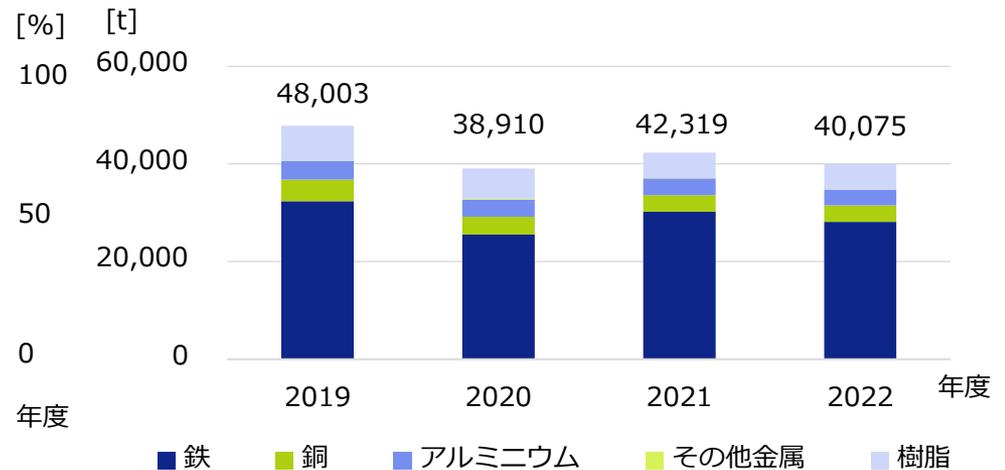
ミツバグループでは、循環型社会の形成と限りある資源の有効利用を進めるため、原材料や副資材の歩留まり向上のための改善活動や、生産設備のダウンサイジングなどの技術開発を推進しています。また、プラスチック資源循環の促進のため、樹脂成型行程では2040年ランナー廃棄量0を目標として、グローバルでの加工改善を計画的に進めることで、より積極的なプラスチック使用製品産業廃棄物等の排出の抑制と再資源化を目指します。

ライフサイクルの視点から資源の効率的な利用やリサイクルを進めることにより、「循環型社会」の形成を目指す活動を推進します。

ミツバグループ排出物発生量およびリサイクル率



ミツバ資源使用量



 **資源循環**

水使用量削減、排水の質の向上への取り組み

ミツバグループでは、事業活動に伴って排水される水の汚染状況を定期的に監視しています。生産工程で使用した水は、高度な廃水処理施設で浄化した後に河川へ排水しています。廃水処理施設で浄化できない廃水は、産業廃棄物として適正処分することで、水環境の保全に努めています。

東日本ダイカスト工業株式会社では、2018年に生産設備の増設に対応するために、既存の廃水処理設備にUF膜処理装置ならびに生物処理装置を追加導入することで、これまで以上に安定した汚染除去処理を行っています。また、水関連のインパクトの大きなアジア拠点では雨水貯留による水資源の有効活用や消費量の削減に積極的に取り組んでいます。ミツバ・インドア Pvt. Ltd.では、表面処理工程からの排水を再利用するため、循環型の排水処理装置を導入し、限りある水資源を有効活用しています。

ミツバグループ水資源使用量



- ・原単位指数は2018年度の売上高当たりの水資源使用量を1とした場合の指数
- ・電力のCO₂換算係数は国際エネルギー機関 (IEA)の国別係数を使用



東日本ダイカスト工業(株)排水処理装置

 **環境リスク低減****環境ガバナンス**

ミツバは、海外グループ会社の環境法規制の遵守状況についても、現地を訪問して現場を直接確認することで、日々の運用状況を把握し指導しています。また、法令違反を未然防止するために、危険物の表示、貯蔵・取り扱いや輸送、さらに廃棄物の適正処理等に関する規定・業務プロセスや設備・施設を直接確認して指導を行っています。

大気汚染防止

工場からの粉じん等の排出を防ぐため、集じん装置やスクラバーを設置しており、年2回以上排ガスを測定し、継続的に監視しています。

水質汚濁防止

工場からの汚染水の流出を防ぐため、排水処理装置や油水分離槽を設置し、日常管理を徹底するとともに、月1回から年2回測定し、継続的に監視しています。また、流出事故の発生を想定し、実地にて年1回、対応手順に従った訓練を実施しています。

騒音への対応

騒音に関しては、防音壁を一部設置するなど低減策を施すとともに、年2回騒音を測定し、継続的に監視しています。

土壌・地下水の保全

六価クロムによる土壌汚染が認められたミツバ研究開発センターについては、行政に報告の上、適切な措置に努めております。地下水の六価クロムおよびシアン濃度を年1回測定していますが、2018年以降は検出されていません。

環境リスク低減

環境不適合発生時の再発防止

ミツバグループでは、環境不適合が発生した場合は速やかに全社環境統括管理者（ミツバ本社）へ報告するとともに、発生した拠点は応急措置を行った上で、原因調査と是正措置を実施します。

全社環境統括管理者は、実施された是正措置の有効性を評価し、他のグループ会社には是正措置の水平展開を指示します。なお、2022年度はミツバグループに関して環境に関する重大な法令違反など不適合はありませんでした。

環境違反件数

[件]



TOPICS

グループ拠点での啓蒙活動

コルポラシオン・ミツバ・デ・メヒコ S.A. de C.V.では、6月5日の世界環境デーに合わせてイベントを開催しました。工場内掲示板への啓蒙資料の掲示、食堂での動画配信、また参加型のクロスワードなどのゲームを通して、環境保護に関する意識向上を図りました。イベントには総勢107名が参加し、参加者へ記念品を贈呈しました。



贈呈した記念品

製品規制物質の管理

ミツバグループは、ミツバ環境宣言において「汚染物質の削減と適正な処理に努める」と掲げており、欧州ELV指令（※1）、欧州REACH規則（※2）を始めとした各国、各地域の法規制に対して、製品への使用を含め、化学物質の適正管理と有害化学物質の使用廃止に積極的に取り組んでいます。

管理体制

ミツバは、製品に関する環境法規制や顧客要求、業界動向を監視し、規制を遵守するために製品中の有害物質を削減または段階的に廃止するグループ切り替え方針を策定、推進する体制として、製品規制物質委員会を設置しています。

また、製品中の規制物質の含有状況を把握するとともに、お客さまから要求があった際にはIMDS（※3）やJAPIAシート（※4）など各種データを速やかに提出するためのシステムをグローバルで整備しています。

製品に関する規制を遵守するため、開発、生産、物流の各段階で管理を徹底していますが、お取引先さまの協力が不可欠です。ミツバは、お取引先さまにも業界標準（GADSL ※5）に各顧客の独自要求を加えた「ミツバ規制化学物質リスト」や「グループグリーン購買ガイドライン」に基づいた管理の徹底を求めています。

（※1）欧州ELV指令：使用済み自動車環境に与える負荷を低減するための指令、鉛・水銀・カドミウム・六価クロムの使用制限等を定めている

（※2）欧州REACH規則：人の健康や環境の保護のための化学品の登録、評価、認可および制限に関する規則

（※3）IMDS：自動車等の部品や材料に含有する化学物質の調査を行い、完成車の法規適合を確認するためのオンラインシステム

（※4）JAPIAシート：JAMA(日本自動車工業会)と JAPIA(日本自動車部品工業会)が作成した、製品に含有する材料成分を登録するフォーマット

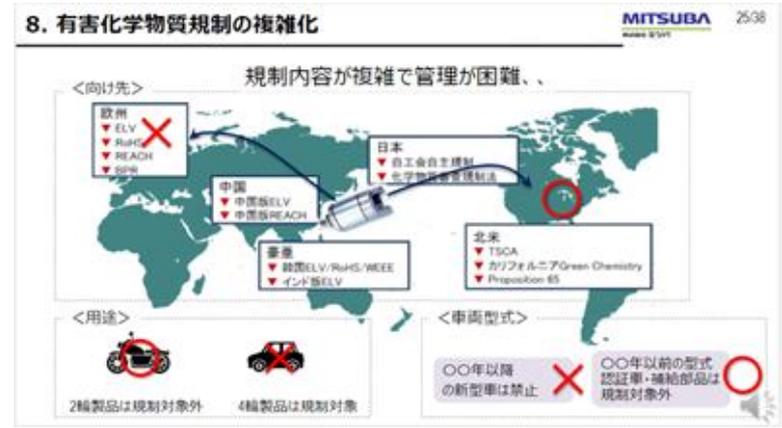
（※5）GADSL：欧州、米国、日本の自動車メーカーにより合意された禁止・申告物質リスト

製品規制物質の管理

管理体制の強化（教育）

ミツバでは、製品規制物質管理体制をさらに強化していくために、開発、営業、購買および品質部門に向けた一般教育および専門教育を企画、実施しています。また、海外グループ拠点の担当者に向けても教育動画を配信しています。

本教育を通じて、製品規制物質への対応が自分事化され、グループ切り替え方針の達成に向けて、より積極的な取り組みへと加速しています。



生物多様性

ミツバグループは、豊かな自然を守るため、自然環境保全に積極的に貢献していくことを「ミツバ環境ビジョン2046」で定めています。

緑豊かな森林を育てることは、動植物や自然環境、生活環境を保全し、生態系や生物多様性の保全にもつながります。グループ各社では周辺の自然環境を確認するとともに、森林整備や植樹、環境美化活動を活発に実施しています。また、事業活動による生物多様性への影響を認識し、工場からの排水が生態系に影響を与えないよう監視および評価を続けています。

自治体や地権者と協定を結んで継続的に実施している森林整備活動では、新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小していますが継続しており、絶滅危惧Ⅱ類の「キンラン」の生育が確認されています。